

五月 May										
1-2	Ko	3 20	4 00	40	309.7	Aqr, Peg	5	0	0.7	E3
6-7	"	2 33	3 53	80	314.6	Peg	13	2	0.7	E10
7-8	"	2 45	3 45	60	315.5	Peg	11	1	0.7	E8
8-9	"	3 42	4 7	25	316.5	Peg, Aql	1	0	0.5	E1
9-10	"	3 33	4 3	30	317.5	Cyg, Del	4	2	0.5	E2
1-2	(OK)	2 30	3 30	60	309.7	Aqr	4	2		E1?
1-2	(MH)	2 30	3 30	60	309.7	Aqr	5	1		E2?
2-3	(EH)	0 00	3 30	210	310.6	Aql, Aqr	10	1		Z3?

六月 June										
22-23	(AO)	21 15	22 15	60	0.1	UMi	10	2		

備考 Remarks: 時刻は日本中央標準時 Time in J. C. S. T. ( $\lambda = -135^\circ$ )

Q: 四分儀群 Quadrantids Z: 鷲群 Zeta-Aquilids

E: 水瓶 $\eta$ 流 Eta-Aquarids

(1) 寺澤隆, 馬場昭夫, 中村陽一三人の共同観測

(2) 病室内よりの観測, 観測視野極めて狭し

以上の外, 星野實氏(東京)より  $\alpha = 218^\circ$   $\delta = +28^\circ$  附近に輻射点を有する流星が二月5日に出現したる由, 報告があつたが, 詳細は不明である。

[戦線よりのたより]

## インド人の“星”

面白い話をききました。印度人は、子供が生れますと、其の夜、天體を観測して、太陽の位置、月の位置、金星の位置、木星の位置を記録します。その方法は、天球を、南北に三十度づゝ、十二等分します。そして、その基点は、四月十四日に太陽のある位置が起点になるのだそうです。そして、又、その十二區分された各區分には、九つの星のグループがあつて(このグループは、今の所分りません。30°を九等分したものではありません。星座のやうな星の群です。後で、よく尋ねます。)誕生の夜の各遊星を記録するのだそうです。そして、それをその人の星とし、其の後の遊星の配置によつて占星術が行はれるのです。全印度人はそれぞれの星を持つてゐるそうです。

試作プラニスフェアに添へて

天界 266 は、一ヶ月間待ちつゞけた甲斐有つて、非常に充實したものでしたが、中にも、先生の Planisphere のお話しは、すぐ實行してみました。一寸時間をかけましたら、今までの賣品より、ずつと良いものが出来ました。今までのものを見ると、オリオンは横にひしやげ、大犬に至つては、足をひろげて舌をたらししたやうな形でしたが、立體投影法によりますと、ちやんとした形になり、満足してゐます。たゞ、これでは南天が極めて大きくなり、中緯度では非常に不便になりますので、月日と時刻とを合はせると、裏にはその時の反対側の天を示します。こうしますと、小さくても、そのわりに圖形は大きくなり、見易くなります。他に、プラニスフェアの見本を見たことが有りませんので、どんなのが有るか知りませんが、實際に作つて、割に便利ではないかと思ひます。特に、賣品は天空の形が變になるのが最大欠點と思ひます。それに、構造上、一寸無理が有つて、ガタついたり、又は動きにくくなつたりします。自作のものでは、北天は天頂よりやゝ南天まで切りぬいてあり、南天では、地平線をあらはしてなく(北35°用)、-50°までにして有ります。

1943-9-9 湯淺一經

天界正誤表

		誤	正
第 265 號	第 224 頁, 下ヨリ 1 行目	便利です。	便利です。
第 266 號	第 246 頁, 16 行目	拂つて來て	持つて來て
	第 248 頁, 9 行目	目くばせした	目くばせして
	第 249 頁, 12 行目	西も,	而も,
	第 277 頁, 6 行目	急報 605 號點に	急報 605 號に
	22 卷索引, 第 2 頁, 右 21 行目	マンドロメダ大	アンドロメダ大
	〃, 第 3 頁, 左 12 行目ノ「天王星 20, 21」ヲ「テ」ノ部ニ入レル		
	〃, 第 4 頁, 右 18 行目	Rushell	Russell
第 267 號	表紙第③頁, 3 行目	星圖	星團
	第 288 頁, 21 行目	1913 年	1939 年
	表紙第①頁, 及, 第 289 頁	紀要 86	紀要 87

ニウカムの正誤表及び書き改め

	頁	行	誤	正
正誤	(1)	19	$\frac{d^2u}{d^2x}$	$\frac{d^2u}{dx^2}$
	(3)	18	數の, 對數に	數の對數に,
書き改め	(1)	22	2 乗は,	其の 2 乗は,
	(2)	18	R と置けば,	R と書けば,
	(2)	34	1000''	1000'' = 16'40''
	(3)	3	の差は	の違ひは
	(4)	26		
	(4)	29		

何れも, 上の行に續けて書く。